

# 安曇野市公立図書館の概要について

## — 図書館を核とした交流学習施設 —

細 田 昌 伸 （安曇野市教育委員会教育部図書館交流課）

### 1 安曇野市公立図書館の沿革

平成 17 年 10 月 1 日、豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の 5 町村が合併し、安曇野市が誕生したが、この合併に先立ち、安曇野地域合併協議会は、市町村の合併の特例に関する法律（昭和 40 年法律第 6 号、旧合併特例法）に基づき新市の基本方針や施設整備などについて、平成 17 年 2 月「安曇野市まちづくり計画（新市建設計画）」を定めた。その中で、図書館に係る施策としては、「地域住民の利便性を考慮した図書館の建設を進める。」とし、「住民ニーズに応え、各地域の図書館を建設し、ネットワーク化を図ります。また、地域によっては、生涯学習センターなどの機能も併設します。」と具体的な施策を掲げていた。

合併前の旧町村の図書館の管理運営状況は、豊科町、穂高町、明科町においては、図書館法に基づく公立図書館が設置されていたが、三郷村、堀金村では公民館内に図書室を設置している状況であった。

合併時には、旧 3 町の図書館に加え、三郷、堀金の公民館図書室を図書館法に基づく公立図書館として、5 館体制でのスタートとなったが、開館日時、職員体制、貸出冊数、貸出期間などは、旧町村のままの状況であり、平成 15 年に子どもと大人の交流施設「ひまわり」内に整備された明科図書館を除く 4 館は、公民館付属の図書室程度の規模であり、狭小で開架書架が高く使いづらい、会議室や研修室など図書館に必要な施設が整備されていない、市民が求める新鮮で多様な資料や情報が収集整理されていない、子ども、お年寄り、障がいのある方などへのサービスが不十分で、5 つの図書館合計の蔵書数、開架冊数、人口一人当たりの蔵書冊数、貸出冊数、利用者登録率が県内 19 市の平均値を下回り、充実した図書館サービスを提供しているとは言い難い状況であった。

一方、合併前の豊科町、穂高町、三郷村には、図書館を核とした交流学習センターの建設計画があり、安曇野市教育委員会では、新市としての施設のあるべき姿、整備方針について検討するため、委員 20 人からなる安曇野市交流学習センター施設検討委員会を平成 18 年 2 月に設置し、3 施設の安曇野市としての位置づけ、旧町村の計画の施設、設備の再検討、規模等の再検討の 3 点についての報告書の提出を求めた。委員会では、17 回の会議と 2 回の公聴会を開催するなどして、平成 18 年 11 月に報告書を教育委員会に提出した。

この報告書では、本館と分館の基本方針と重点資料収集方針、穂高地域に中央館を置き、豊科、三郷、堀金、明科地域に分館を配置すること、すでに整備されている明科を除く4施設については、市民に多様な過ごし方や出会い、交流の場を提供できること、さらに本市の生涯学習の高まりに期待する複合施設として整備すべきとされた。

平成20年3月に策定された第1次安曇野市総合計画では、快適な学習環境の確保のため、図書館を核とした交流学習施設などの整備、充実を基本施策のひとつとして掲げ、平成21年9月に穂高交流学習施設「みらい」内に中央図書館、平成23年2月に、豊科交流学習センター「きぼう」内に豊科図書館、平成28年4月に堀金複合施設内に堀金図書館が移設開館し、また、平成30年3月10日に三郷交流学習センター「ゆりのき」内に三郷図書館が移設開館することになった。

## 2 安曇野市立図書館の概要

安曇野市図書館条例に基づく本市の中央図書館と豊科、三郷、堀金、明科の各分館の概要は、次の表のとおりである。なお、三郷図書館については、開館時の見込みである。

### (1) 所在地・構造・蔵書数等

名称・所在地	現施設 開館年	図書館延べ床面積	蔵書点数 (H28年度末)	個人利用者数 (H28年度)
中央図書館 穂高 6765-2	H21.9.12	S造2階建、1,820 m <sup>2</sup>	200,341	128,323
豊科図書館 豊科 5609-3	H23.2.11	RC造3階建、1,089 m <sup>2</sup>	81,692	45,284
三郷図書館 三郷明盛 4810-1	H30.3.10	S造平屋建、961 m <sup>2</sup>	35,517	10,718
堀金図書館 堀金烏川 2750-1	H28.4.1	RC造3階建、700 m <sup>2</sup>	31,783	13,889
明科図書館 明科中川手 6814-1	H15.4.28	RC造2階建、817 m <sup>2</sup>	47,229	8,826

## (2)開館時間・休館日・貸出条件

	開閉館時刻		休館日	貸出条件等	
	平日	その他の日		点数	期間
中央図書館	9:00～ 20:00	9:00～ 18:00	毎週月曜日 祝日の翌日 最終金曜日 年未年始 蔵書整理期間	・個人 図書 10冊 AV 3点 紙芝居 2点	・個人 2週間
豊科図書館	10:00～18:00				
三郷図書館					
堀金図書館					
明科図書館				・団体 図書 100冊	・団体 1カ月

## 3 安曇野市図書館基本計画と図書館の利用状況

前述のように合併時の本市の公立図書館は、明科図書館を除き、充実した図書館サービスを提供しているとは言い難い状況だったことから、安曇野市教育委員会では、市民に信頼され、広く利用される図書館を目指して、平成21年9月に図書館基本計画（平成21年度～平成29年度）を策定し、「市民へ質の高い情報を提供できる『情報のセンター』を目指します。」と「生涯学習の中核として市民の『学び』のニーズに応えます。」の二つの基本理念を掲げ、次の6つの項目を基本方針とし、図書館を核とした交流学习施設を整備するとともに、機能・サービスの充実を図ってきた。

- (1) 新鮮な資料や最新の情報の提供
- (2) 様々な「学び」の場としての図書館サービスの充実
- (3) 「地域の教育力」の向上
- (4) 図書館利用に障がいのある方々への支援
- (5) 市の歴史の未来への伝承
- (6) 市民の調査・研究の援助

また、図書館施策の企画立案及び推進、幅広い資料の収集と長期保存等図書館サービスの中核を担う中央図書館と、地域に根ざした身近な地域図書館（分館）の運営計画を定め、施設の充実を図るとともに各館の特色ある運営と連携に努めてきたところである。

平成20年度を基準年とした計画のサービス目標値と平成28年度の状況は、次表のとおりである。

## ○ 全館

項目	平成 20 年度	目標値	平成 28 年度
個人登録率	22.4%	39.5%	43.7%
市民 1 人あたりの 貸出点数	3.6 点	5.6 点	8.0 点
団体登録数	107 団体	150 団体	221 団体
総蔵書点数	221,506 点	400,000 点	396,562 点
年間利用者数	122,410 人	280,000 人	207,040 人

## ○ 各館

項目		個人 貸出点数	団体 貸出点数	予約件数	レファレンス サービス件数	総蔵書 点数
中央 図書館	目標値	215,000	28,000	3,800	250	200,000
	H28 年度末	479,103	10,395	12,977	2,207	200,341
豊科 図書館	目標値	160,000	3,100	3,500	150	65,000
	H28 年度末	155,613	5,592	7,655	1,380	81,692
三郷 図書館	目標値	86,000	1,700	3,200	100	53,000
	H28 年度末	43,824	4,081	3,304	245	35,517
堀金 図書館	目標値	45,000	900	2,000	50	41,000
	H28 年度末	56,823	2,517	2,468	42	31,783
明科 図書館	目標値	54,000	900	2,700	50	41,000
	H28 年度末	28,948	2,559	2,010	595	47,229
合計	目標値	560,000	34,600	15,200	600	400,000
	H28 年度末	764,311	25,144	28,414	4,469	396,562

※ 目標値は、中央図書館・明科図書館は、平成 26 年度、その他の館は、整備後 5 年以内

利用状況については、個人貸出数は、計画策定時の 320,541 冊から平成 28 年度には 764,311 冊、登録率も 22.4%から 43.7%になるなど大幅に増加している。これは、平成 21 年 9 月に中央図書館、平成 23 年 2 月に豊科図書館が移設開館したことによる高い開架率と蔵書数の増加による効果が大いものと考えられるが、個人貸出数は、平成 24 年度の 762,963 冊をピークに若干減少している。

平成 25 年 5 月から全館で図書館予約検索システムが稼働したことから、予約件数は、平成 20 年度の 7,589 件から平成 28 年度は 28,414 件となり、うちインターネットによる予約件数は、19,123 件となっている。

計画期間の平成 29 年度末までには、年間利用者数、団体貸出点数以外の目標値は、達成する見込みであり、平成 30 年 3 月の三郷図書館の移設開館をもって本市の図書館の施設整備は、概ね終了することから、施設整備後の本市の図書館の機能の充実、図書館サービスの質的向上を図るため、平成 28 年度から平成 29 年度にかけて第 2 次安曇野市図書館基本計画の策定に取り組んでいるところである。

#### 4 安曇野市の交流学習施設について

本市の図書館を核とする交流学習施設の概要は、次表のとおりである。なお、堀金図書館については、堀金支所、堀金公民館等がある堀金複合施設 2 階にあり、図書館外に学習室を設置している。

##### (1) 学習施設の概要

名 称	竣工期日	構造・敷地面積・床面積	主な施設
穂高交流学習センター 「みらい」	H21.6.1	S 造 2 階建 敷地面積:14,094 m <sup>2</sup> 延床面積:4,157 m <sup>2</sup>	中央図書館、展示ギャラリー、多目的交流ホール、楽屋、地域学習室、学習室、グループ活動室
豊科交流学習センター 「きぼう」	H22.11.2	RC 造 3 階建 敷地面積:33,442 m <sup>2</sup> 延床面積:2,617 m <sup>2</sup>	豊科図書館、熊井啓記念館、多目的交流ホール、学習室 1～6
三郷交流額数センター 「ゆりのき」	H29.12.21	S 造平屋建 敷地面積:12,086 m <sup>2</sup> 延床面積:1,846 m <sup>2</sup>	三郷図書館、学習室、展示ギャラリー
明科子どもと大人の 交流施設 「ひまわり」	H15.1.31	RC 造 2 階建 敷地面積:3,502 m <sup>2</sup> 延床面積:2,472 m <sup>2</sup>	明科図書館、学習館、児童館

##### (2) 穂高交流学習センター「みらい」について

###### ア 経緯等

平成 12 年 4 月に穂高町芸術文化施設整備検討委員会が設置され、穂高町の芸術文化に係る総合的な施設の整備についての検討がされ、芸術文化施設の全体機能及び事業活動、施設運営等に関する事項について、「穂高町芸術文化振興計画」がまとめられた。平成 17 年 8 月

には、(仮称)穂高町地域交流センター建設事業プロポーザルを実施し、図書館、ホール主体の交流センター、顕彰館機能を有する施設としていたが、前述のとおり、合併後、新市において新たに「安曇野市における図書館を核とした複合生涯学習施設の望ましいあり方」について検討するため、平成18年2月、安曇野市交流学習センター施設検討委員会が設置され、計17回の会議と2回の公聴会を経て報告



写真1 穂高交流学習センター「みらい」

書がまとめられた。この報告書で、現在の穂高交流学習センターの位置に、蔵書数を20万冊とする中央図書館を核とする穂高交流学習センターを整備することが提言された。

平成19年3月から、報告書に基づいてまとめた基本構想図(案)について、市民ワークショップを5回開催し、市民からの意見を聞いた後、平成19年11月に、用地造成工事、平成20年3月には、建設工事に着手した。この間、施設の愛称を市民から募集し、平成21年5月に、「みらい」に決定した。同年6月1日建設工事が竣工し、9月12日、穂高交流学習センター「みらい」(写真1)がグランドオープンした。

## イ 特色等

「交流の場」、「学習の場」として市民活動を支援すると同時に、市民自らが安曇野の歴史や人物、自然、文化、芸術などを探求し、成果を市内外に発信するための「安曇野地域学習の拠点」施設として、20万冊の蔵書が可能な中央図書館を中核に、市民の発表や上映会などに利用できる舞台を備えた200席の多目的ホール、市民の学習活動による作品や写真の展示に最適な展示ギャラリー、気軽に利用できるスペースとして無料で利用できる地域学習室、カフェコーナーなどがあり、待ち合わせや談笑など自由に交流できるエントランスホールなどを併設している。

## (3) 豊科交流学習センター「きぼう」について

### ア 経緯等

平成5年3月に豊科町において、豊科町図書館基本計画策定委員会を設置し、町長から新しい豊科図書館のあり方について諮問がなされ、9回の委員会、懇談会、小委員会等を開催し、平成6年11月に策定委員会から「町立図書館基本計画答申書」が提出された。平成16年10月には、豊科町図書館建設検討委員会が設置され、「豊科町立図書館(仮称)建設計画」

を取りまとめた。

新市において、安曇野市交流学习センター検討委員会の報告書を受け、旧豊科町の計画では、豊科交流学习センターは図書館主体の計画で、一階に図書館が、二階には交流のスペース等が配置されているが、新市発足後の制定した図書館条例では、豊科図書館を「分館」の位置付けとし、施設建設計画を再検討する中で、図書館機能、地域学習館機能の施設規模はやや縮小することとした。

一方で隣接する豊科近代美術館は、威風を感じさせるロマネスク調の外観ではあるが、内部は手狭な部屋が連なり、大型の絵画を展示、鑑賞できるスペースが無く、美術品収蔵スペースが少ないなどの問題点があったため、豊科交流学习センターの建設に合わせ、豊科近代美術館を安曇野市の「基幹美術館」にふさわしい規模、内容のものとするために、必要な施設整備を合わせて行うこととした。

平成 21 年 8 月に建設工事に着工し、平成 22 年 11 月竣工した。この間、施設の愛称を市民から募集し、平成 22 年 12 月「きぼう」に決定し、平成 23 年 2 月 11 日に豊科交流学习センター「きぼう」は、開館した。

#### イ 特色等

豊科交流学习センターの建設場所については、旧豊科町の計画どおり近代美術館南側とした。また建設位置についてはできる限り芝生地を残すようにし、建物の外観については美術館にマッチするものとした。

また、市民が発表しあい鑑賞しあうことで交流ができ、大きな作品をゆったり鑑賞できるギャラリー機能を持った多目的ホールを設置し、安曇野市名誉市民の映画監督、熊井啓の顕彰機能を併設している。

### (4) 三郷交流学习センター

#### ア 経緯等

平成 9 年 7 月に、三郷村教育委員会が三郷村立図書館建設準備委員会を設置し、「三郷村立図書館建設計画について」を諮問し、会議 6 回、先進地視察 3 施設を経て、平成 11 年 3 月に三郷中学校北を予定地に延床面積 2 千平方メートル、蔵書目標 10 万冊とし、多目的ホールを併設する内容の答申がされた。

平成 14 年 6 月には、三郷村長が、三郷村生涯学習センター研究委員会を設置し、「三郷村生涯学習センター基本構想」を諮問し、委員会 9 回、先進地視察 3 施設を経て、平成 15 年 3 月に公共図書館、児童館機能の併設、ホール、ギャラリーなどの生涯学習の拠点施設整備する旨の報告書が提出された。平成 16 年 7 月には、三郷村長が三郷村生涯学習センター建設委員会を設置し、「三郷村生涯学習センター建設計画」を諮問し、平成 17 年 6 月に図書館児童館部分、座席数 300 席以上の多目的ホール部分からなる複合施設としての構想となる

「三郷村生涯学習センター建設計画報告書」の提出がされた。

平成 17 年 10 月 1 日の合併後、平成 21 年 7 月に耐用年数が 15 年以上ある施設については、市民が自由に交流できるスペースとして、図書館、公民館、児童館、古文書館としての活用を検討していく内容を含んだ安曇野市本庁舎等建設基本構想が策定され、平成 22 年 12 月には、既存施設の活用方法として、三郷総合支所は、耐震補強工事を実施した上で、支所機能のほか市民が自由に交流で



写真 2 平成 30 年 3 月 10 日オープン予定の  
三郷交流学習センター「ゆりのき」

きるスペースや図書館棟として活用する内容を含んだ安曇野市本庁舎等建設基本計画が策定された。これを受け、平成 23 年 9 月に三郷総合支所等整備検討市民会議が設置され、平成 24 年 3 月に三郷総合支所 1 階部分を、三郷図書館と共用ゾーン及び施設管理部として整備するという内容の報告書が提出された。

平成 26 年 2 月に、安曇野市は、安曇野市支所等整備基本計画を策定し、この中では三郷庁舎を解体し、跡地に図書館を核とした「三郷交流学習センター」を新築するとした。これを受け、平成 26 年 11 月に 3 回のワークショップを経て、三郷支所等整備検討委員会から三郷支所等整備についての報告書が提出され、三郷交流学習センターは、図書館部分と交流部分を持ち、市民一人ひとりが自己実現を図り、公民館と共に三郷の生涯学習の拠点となる施設として新たに整備することとなった。

平成 26 年に基本設計、平成 27 年度から 28 年度にかけて実施設計、平成 28 年度に旧三郷支所の解体を行い、平成 29 年 1 月に建設工事に着工し、平成 29 年 12 月 21 日に竣工（写真 2）、平成 30 年 3 月 10 日の開館を予定している。なお、この間、三郷図書館は、三郷支所の改築に伴い、平成 27 年 7 月に三郷文化公園体育館内に仮設移転している。

また、施設の愛称を市民から募集し、平成 29 年 11 月、三郷地域の教育のシンボルとなっている北米原産のユリノキにちなんだ「ゆりのき」に決定した。

## イ 特色等

三郷支所、三郷公民館に隣接し、安曇野市図書館の「三郷図書館」、展示や自習・談話室として多目的に利用できる「展示ギャラリー」、様々な学習や講座などに利用できる「学習室（2室）」「地域学習室（1室）」「自習室」が併設される。



## (5) 堀金複合施設

### ア 経緯等

上記の三郷交流学习センターの経緯等にあるように安曇野市本庁舎等建設基本構想では、耐用年数が15年以上ある施設については、市民が自由に交流できるスペースとして、図書館、公民館、児童館、古文書館としての活用を検討していくとされたことから、平成14年に竣工した堀金総合支所は、安曇野市本庁舎等建設基本計画において、支所機能のほか市民が自由に交流できるスペースや図書館棟として活用することとされた。

平成23年9月に堀金総合支所の利活用について検討するため、堀金総合支所等整備検討市民会議が設置され、平成24年2月に総合支所、公民館、図書館等を備えた地域住民の交流学习・生涯学習の拠点となる複合施設として整備する旨の報告書が提出された。平成26年2月策定された安曇野市支所等整備基本計画では、1階に支所事務室、生涯学習等事務室、2階には、図書館、学習室、3階に講堂、会議室、創作室、多目的視聴覚等を配置した複合施設として整備することとし、平成27年9月に堀金複合施設改修工事が着工され、平成28年4月1日に堀金図書館、公民館を併設した堀金複合施設がオープンした。

### イ 特色等

堀金複合施設は、1階に支所、2階に堀金図書館、3階に音響機器などが備わったスタジオを含む公民館が入り、また、調理実習棟としての別館が整備され、交流学习センター機能を合わせた複合施設となっており、世代を超えた多くの市民の交流、学習の場として、それぞれの施設の相乗効果が期待されている。

## 5 本市の図書館活動について

安曇野市図書館基本計画に掲げた6つの基本方針により、計画期間中に取り組んできた図書館サービスは次のとおりである。

### (1) 新鮮な資料や最新の情報の豊富な提供

市政施行から平成29年度までに、蔵書数は、蔵書目標の40万冊に達する見込みである。また、中央図書館では、信濃毎日新聞、法律情報、農業、インターネット百科事典、官庁情報の5種類のオンラインデータベース環境を提供している。

さらに、全ての図書館で本の閲覧・貸出だけでなく、公衆無線LANの供用や、インターネットを利用できるパソコン、AV視聴ブースを設置している。

### (2) さまざまな「学び」の場としての図書館サービスの充実

第1次計画の策定時から、全ての図書館で土日・祝日に開館するとともに、中央図書館では、

平日は午前9時から午後8時までを開館時間としている。また、全ての図書館で、児童用図書の書架、幼児用スペース、おはなしの部屋を設置するとともに、図書館ボランティアが中心となったお話を中央図書館では毎週、地域図書館では月1回程度開催している。あわせて、対象年齢別のブックリストの作成や比較的利用が少ないヤングアダルト層のコーナーを設置している。

また、開館日には、図書館間で資料を運ぶ配本車を運行し、他館での貸出、返却を可能とするとともに、この配本車を利用し、認定こども園、児童クラブ、市内小中学校、病院、福祉施設等への団体貸出の配本を行っている。

平成27年5月からは、新しい図書館システムを導入し、インターネットからの蔵書検索や予約に対応している。

### (3) 「地域の教育力」の向上

全ての図書館で、市民のニーズに沿った図書館講座を開催するとともに、読んだ本の感想を100冊分書き込むことで、読書意欲が高まることを目的に、読書通帳を配布するとともに、多くの市民に読書通帳を利用していただけるように読書週間などで利用促進の企画を行っている。

中央図書館では、子どもの多様な能力を伸ばすため、学校での調べ学習の支援に向け、市内小中学校からの要望を踏まえながら計画的に学校調べ学習用図書を整備し、小中学校へ配本をしている。

### (4) 図書館の利用に障がいのある方々への支援

図書館利用の障がいは、「図書館に来られない」、「活字資料を読むことが困難」等様々なものがあり、このような方のために目に障がいのある方への音訳した広報の提供や DAISY 図書（視覚障害などで活字の読みが困難な人のために作成されるデジタル図書）の相互貸借のサービス、配本サービスなどの充実に努めている。

### (5) 安曇野市の歴史の未来への伝承

市や教育委員会など行政が刊行する諸計画、予算などの行政資料をはじめ、行政区や団体等で作成した地域文化に関する資料等を収集、整理し、貸出に供している。

### (6) 市民の調査・研究の援助

利用者の立場に立った図書館サービスを提供し、また、市民の学習を支援するレファレンスサービスを担えるような専門的知識と新しい技術を習得した職員を育成するため、全職員を対象とした研修会を実施するとともに、県立図書館、県図書館協会等が主催する研修会に参加し、職員のスキルアップに努めている。

## 6 今後の本市の図書館活動について

### (1) 市民、利用者、小中学生アンケートの実施

今後の本市の図書館の充実のため、現在第2次安曇野市図書館基本計画（平成30年度～平成39年度）の策定に取り組んでいるが、この計画策定のため、平成28年12月から平成30年1月にかけて、市民アンケート、利用者アンケート、小中学生アンケートを実施し、市民等の図書館に対するニーズの把握を行った。これによると本市の公立図書館の主な課題としては、次のようなことが考えられる。

- ア 蔵書目標の40万点に達したが、新しい本、雑誌、視聴覚資料などのさらなる充実を求める意見が多い。
- イ インターネット利用、AV視聴ブース、オンラインデータベースの利用など利用が少ないサービスがある。
- ウ レファレンスサービスや団体貸出などのサービスについて認知が少ない。
- エ 公共図書館を利用する市民の割合は、約半数であり、特に10代から20代の世代が少ない。

### (2) 第2次安曇野市図書館基本計画での主な取り組み

ソフト事業を行うためのハード事業が一段落し、市民等の要望に応えられる図書館サービスの充実が求められている。そこで、第2次計画の案では、市民が生涯学習を進める上で、質の高い情報を提供できる「学習センター」、「情報センター」、「文化センター」としての図書館の充実を図り、また、子どもから高齢者まで、本と触れ合う機会を増やすとともに、市民と市民が、本を通して出会う機会の充実を図るため、多様化する市民の「学び」に応える図書館、「本と人、人と人の出会いの広場」となる図書館を目指すことを基本理念とし、次の7つの基本方針で運営していく予定である。（※本稿執筆時は、案の段階で、今後パブリックコメントを実施した上で計画決定していくことから、今後変更があることをお断りしておく。）

- ア 市民への新鮮な資料や最新の情報の提供
- イ ささまざまな「学び」の場としての図書館サービスの充実
- ウ 「地域の教育力」を高める活動の推進
- エ 図書館の利用に障がいのある方々の障がいの除去
- オ 本市の歴史と文化の継承
- カ 市民の調査・研究の支援の強化
- キ 計画の推進

---

**参考文献**

- ・報告書「安曇野市交流学習センター整備に向けて」（平成 18 年 11 月）：安曇野市交流学習センター施設検討委員会
- ・「安曇野市本庁舎等建設基本構想」（平成 21 年 7 月）：安曇野市
- ・「安曇野市本庁舎等建設基本計画」（平成 22 年 12 月）：安曇野市
- ・報告書「安曇野市堀金総合支所等整備について」（平成 24 年 2 月 23 日）：堀金総合支所等整備検討市民会議
- ・報告書「三郷総合支所等整備について」（平成 24 年 3 月 15 日）：三郷総合支所等整備検討市民会議
- ・「安曇野市支所等整備基本計画」（平成 26 年 2 月）：安曇野市
- ・報告書「三郷支所等整備について」（平成 26 年 11 月 27 日）：三郷支所等整備検討市民会議